

演題名：紙カルテをなくすことから始める、クリニック DX 化の本質的意義

演者：吉住 淳

所属：株式会社 Brace

所属：医療分野における「DX」は、単なる効率化やコスト削減を超えて、「質の高いケア」の提供を目指すべきである。DX 自体が直接的に医療の質を向上させるわけではないが、業務の効率化や仕組み化を通じて、医療従事者が患者により多くの時間を割けるようになるため、結果的に高品質なケアを実現する基盤を作る。

例えば、矯正歯科の分野では、マウスピース型矯正装置やカスタマイズブラケットの作成において、CAD デザインと CBCT データの統合が可能となり、3D プリンターやマテリアルの進化により院内でのアライナー製作も実現している。しかし、これらのデジタル化の波に揉まれる中、矯正歯科医の時間や労力は本当に効率化されているのだろうか。実際のところ、DX は時として新たな時間や労力を要する場合もある。

このような DX に日々追いついていこうと必死になる一方で、日本の矯正歯科においては、デジタル化の根幹にあるべきカルテの電子化が遅れている。欧米では約十年前に紙カルテが淘汰されたと言われるが、日本ではいまだに紙のカルテが主流である。この遅れは、業務の非効率性をもたらし、患者ケアの質に影響を及ぼしていることも考えられる。

本講演では、オンラインカルテシステム「b-align (ビーアライン)」の導入が、いかにして矯正歯科医院の DX を促進し、結果として質の高いケアに繋がるかを詳述する。

「b-align」は、診療データの一元管理と共有を可能にし、診療の効率化を図ることで、歯科医師とスタッフがより多くの時間を目の前の患者に割くことが可能になる。DX という言葉に惑わされることなく、デジタルツールの本質的な価値を理解し、活用することが、我々矯正歯科医に求められている。「b-align」は、矯正歯科の診療プロセス全体を革新し、患者にとっても医療従事者にとっても最適な環境を提供するツールとして期待できると言える。